

愛知県の弥生時代石器をめぐる基礎的研究

永井宏幸・原田 幹・石黒立人

1. はじめに

弥生時代の石器研究は、これまで大陸系磨製石器を中心に行われてきたと言っても過言ではない。弥生文化の研究が北部九州や近畿地方を中心に進められてきたことがその大きな要因として挙げることができる。

つまり、弥生文化の主要要素は大陸系にあるとして、それが縄文時代と弥生時代を区分する主要な指標になり得たからであった。

このような傾向のなかで、近畿地方以東の地域では大陸系磨製石器が基本的に少ないこともあって、弥生時代における石器研究の比重はそれほどでもなかった。そのなかで、隣接する長野県では神村透氏が伊那谷の打製石器の研究を精力的に進め、一步も二歩もリードしていた。

ところで神村氏の研究方向は、藤森栄一氏の縄文農耕論としての石器研究とある意味で平行的であったと言えるのではないだろうか。弥生文化としての石器、すなわち農耕具としての石器という観点からの研究として、そこには、弥生時代と縄文時代の類似性の強調（共通性の認定）が大きなモチーフとしてあったと言えるのではないか。いかに時代によって区分されているものであっても、それを超えてつながりがあるという、そういった側面に評価を与えることが目的であったように、私には思える。

弥生時代の石器は、縄文時代の石器体系から鉄器を中心とした金属期の体系への移行期に相当するものである、というのがおそらくこれまでの考え方であろう。だが、果してそのような中間的な

位置づけでよいのだろうか。

そもそも弥生文化といい、弥生時代といい、そのような一般的様相が、資料的な実態として存在するのであろうか。私にはそうは思われない。資料的な実態とは意外なほどずれている部分もあるのではないだろうか。このことは、石器研究の先行地域である北部九州や近畿地方でも同様なのではあるまいか。

弥生時代の石器という、そのレベルでの一般性が果して資料的な実態として保証されていると言えるのであろうか、このように考えたとき、わが愛知県も例外ではない。検討のための土俵作りがなんと不十分なことか。そうした思いが今回の報告の背景にあった。

今回の報告は表題に関わる一連の作業の序に相当するものである。すなわち、われわれはこれまで愛知県で報告された資料の集成をまず第1の目標とし、そのための予備的な作業として永井・原田の両名が尾張・三河を分担しての文献整理・文献探索を行い、以下に述べているように研究史というかたちでまとめた。これを序として以後の作業の流れを示せば次のようになる。

①石器の所在を確認するとともに、できるかぎり再実測を行い、また写真撮影などの資料化を進めること。

②尾張地方の石器集成を基礎に周辺地域との比較を行い、視点の次元を〈伊勢湾地方〉へ移行させる。

③伊勢湾地方を基礎に他地方との比較検討を進める……など。
(石黒立人)

2. 調査研究抄史

【1950年以前】

尾 張

1950年以前については、報告が10本に満たない。ただ、1950年以降の調査報告につながる遺跡の報告が多い。例えば、1908年の鍵谷徳三郎が報告した高蔵（貝塚）遺跡は、まさに愛知県における近代考古学の原点と言えるし、吉田富夫の報告した西志賀貝塚（遺跡）の2遺跡は愛知県の弥生時代を代表する遺跡となる。石器に関しては、写真を掲載計測値や種類の紹介が多い。ただ、小栗鐵次郎が調査報告を担当した『愛知県史跡名勝天然記念物』は半世紀以上の時を感じさせない。土器の実測図はもちろん、石器の実測図や石材の鑑定、遺跡の保存にいたる、まさに現在の調査報告書に引けを取らない報告である。（小栗 1931など）

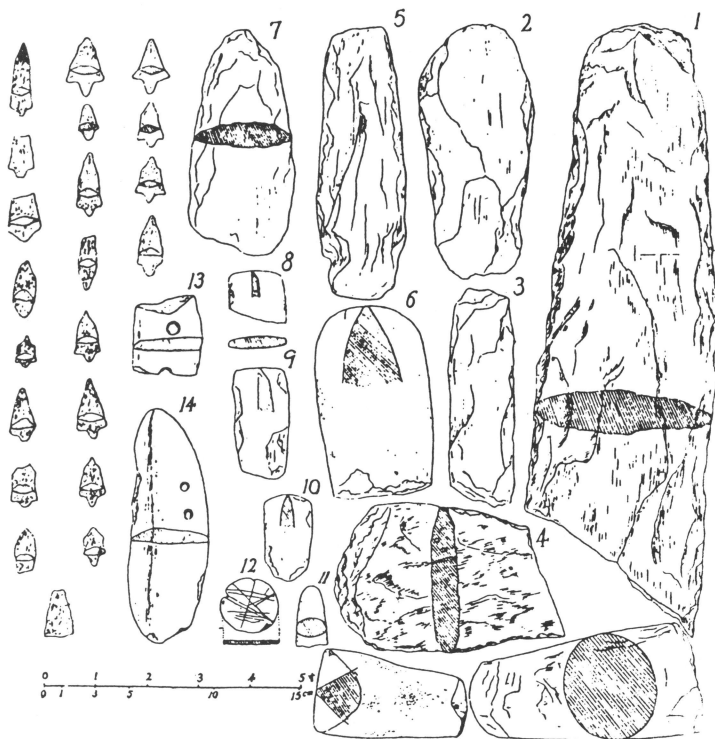
三 河

1923年に発表された『渥美郡史』のなかに、縄

文時代の石器とともに掲載されたものが初見である。掲載内容は、写真とわずかな記述に留まる。昭和に入り豊川流域を中心に瓜郷遺跡など重要な遺跡の発見が相次いだが、ほとんど報告されることはなかった。このようななかで1941年に発表された丸塚遺跡の報告は、県内では初の弥生時代の発掘調査として特筆すべきであろう。（吉田ほか 1941）また、森本六爾によって報告された高師原遺跡出土の石剣は、当時の石剣分布範囲の東端を示す資料として評価された。（森本 1933）

以上のように、調査事例が少ないわりに石器の記載頻度が高い理由に、石器を自然石と区別がしやすい、すなわち遺物としての認識が比較的容易であったからであろう。

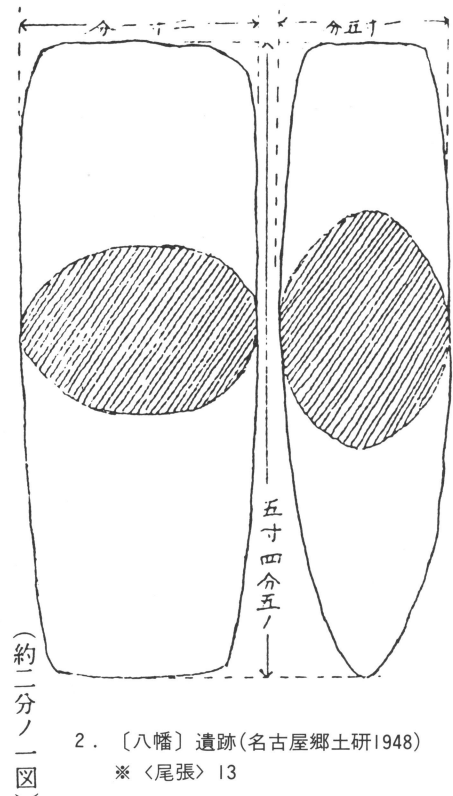
また小栗の報告は当時としてはレベルの高いものであり、他県における同様の報告と比べても、引けをとらないものであろう。



（図16右図15左端下）圖測實器石土出地含包物遺野會字大町倉岩郡羽丹

1. 曾野遺跡（愛知県 1940より）※尾張II

図1 1950年以前の実測図サンプル



2. 〔八幡〕遺跡（名古屋郷土研1948）

※〈尾張〉I3

【1970年代まで】

尾 張

1945年から1970年代については、先に記したように、西志賀遺跡・高蔵遺跡の調査報告、『一宮市史』の一連の調査報告などが注目される。

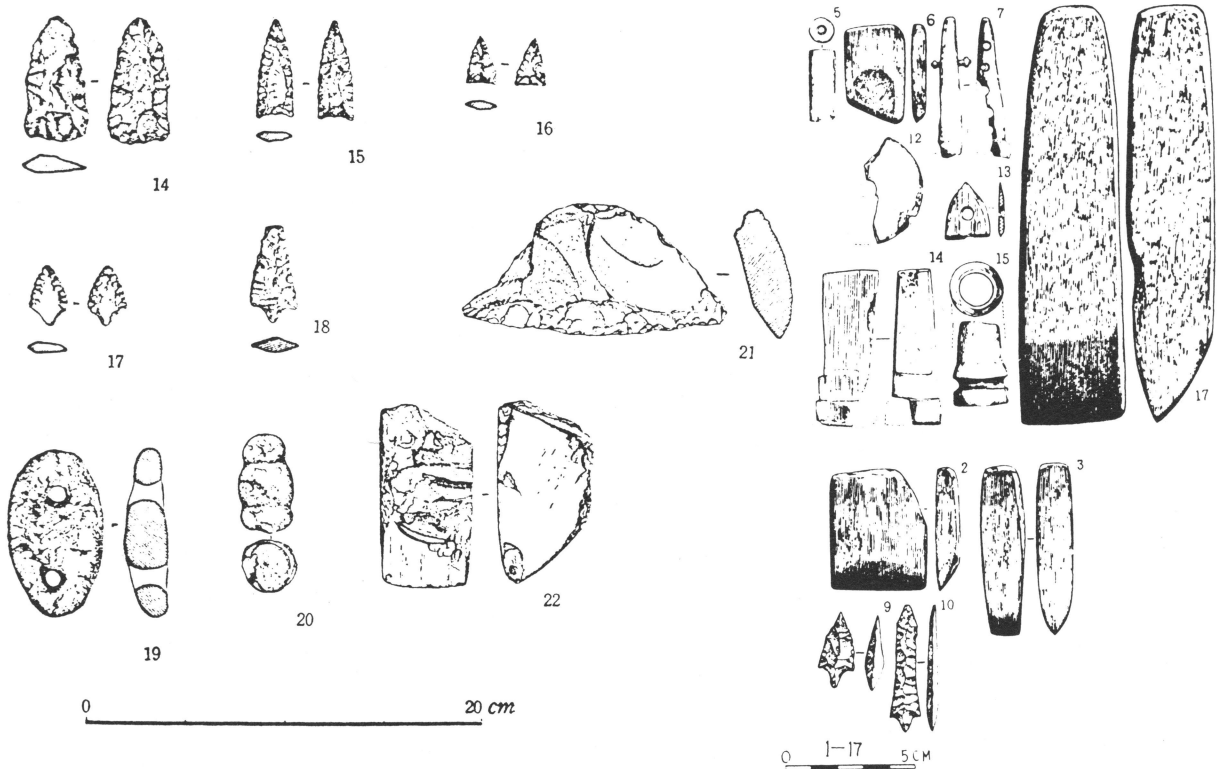
西志賀遺跡については、地元の研究者である吉田富夫・紅村弘らと東京考古学会の小林行雄・杉原莊介らにより、弥生文化黎明期の解明を中心に調査研究が進められた。(吉田 1961ほか) 石器に関しては、弥生文化のメルクマールである大陸系磨製石斧など紹介に留まり、専ら遠賀川系土器の東漸に注目した報告であった。『一宮市史』の責任編集を担当した澄田正一は、石材の流通や機能について、一連の研究を発表した。(澄田 1955など) また、『一宮市史』に代表されるように市町村史が續々と刊行され、各々表採遺物を含めて県内の遺跡・遺物が集成された。しかし、石器に関する掲載内容は、写真が主なもので、記載も概説的なもの

が多く、研究の進展はなかった。

三 河

戦後まもなく久永春男の『三河の貝塚』が刊行され、戦前までに発見されたいくつかの弥生遺跡が紹介された。これに引き続き久永は中村文哉らと1940年代後半から1960年代前半にかけて、豊川流域に焦点を当て、瓜郷・篠塚・樫王などの遺跡を調査報告した。石器に関する記載は、実測図・写真・計測値・石材など、ほぼ現在の調査報告と同様の掲載内容に落ちついてきた。また、大陸系磨製石斧の出土頻度が西日本に比べて少ないこと、石器の機能と石材との関連、石材の入手をめぐる問題も注意が払われている。

しかしながら、1960年代後半から1970年代にかけて刊行された市町村史は戦後までの資料を網羅的に掲載しているものの、採集遺物が多くを占めるのも手伝って、記載内容に不備な点が多く、資料の実態が不明確なものが多い。



1. 西志賀遺跡 (日本考古学協会 1961より) ※尾張16

2. 瓜郷遺跡 ※三河10
(紅村1974より)

図2 1970年代までの実測図サンプル

【1980年代以降】

尾 張

1980年代については、石器の組成・製作技法・使用痕分析など、ほぼ現在全国的に行われている諸研究が出揃った。

野澤則幸や石川日出志の研究は、縄文時代から弥生時代への変遷を石組組成から迫った。特に石川は、弥生時代中期に縄文的石器組成（台地型）・大陸系石器組成（平野型）の二者を想定し、立地を含めたモデル化を図った。

石器の製作技術については、山中遺跡の報告で赤塚次郎が剥片石器を丹念に接合し、製作過程を復元している。（一宮市教委 1982）

石材の流通および石材の選択などの研究は、「下呂石」を題材に飴谷 一が考古学的な視点から行っている。

石器の使用痕については、全国的にみてもまだ途に着いたばかりである。旧石器時代を中心に行なわれてきた使用痕分析を応用した研究や、石庖丁を中心にイネ科の植物によって残る光沢痕の観察などがある。朝日遺跡の報告で、石黒立人は石

器観察結果を顕微鏡写真などで紹介している。（石黒 1993）

三 河

1980年代に入ると、開発に伴う発掘調査が増え、調査対象面積も増加したことから、石器の報告例もこれに伴って急増した。おもな調査としては、前期の環濠集落とされている白石遺跡、大陸系磨製石斧が多く出土した岡島遺跡、磨製石斧の未製品をはじめ大量の石器を出土した麻生田大橋遺跡などがある。

また、これらの調査に関連して近年特に注目されているのは、石器の石材とその流通である。麻生田大橋遺跡を例に2本の研究を挙げると、森勇一による磨製石斧の石材分析（県埋文 1991）や小嶋隆による石鏃の石材とその流通問題がある。また、石材の同定も従来の肉眼観察による分析だけでなく、偏光顕微鏡による観察、質量と体積の測定値よりえられる比重分析など、遺物をより客観的かつ科学的な方法も採用されるとともに、岩石学など関連する自然科学の分野との連携も必要になってきている。

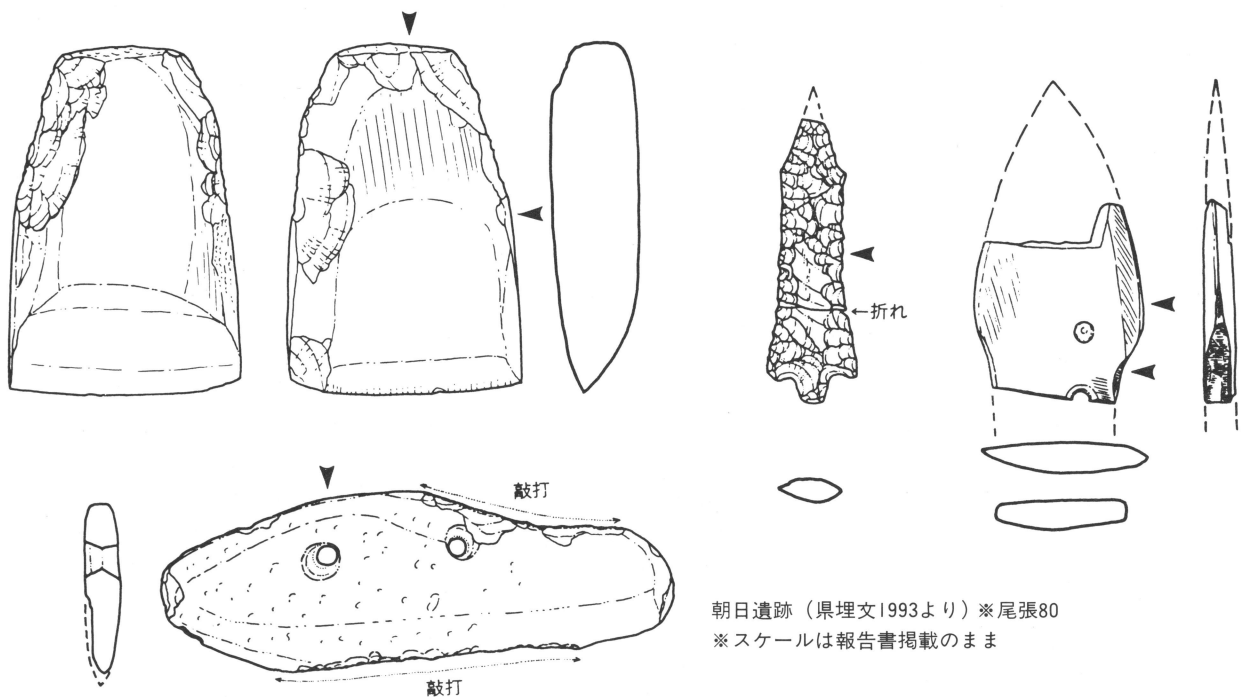


図3 1980年代以降の実測図サンプル

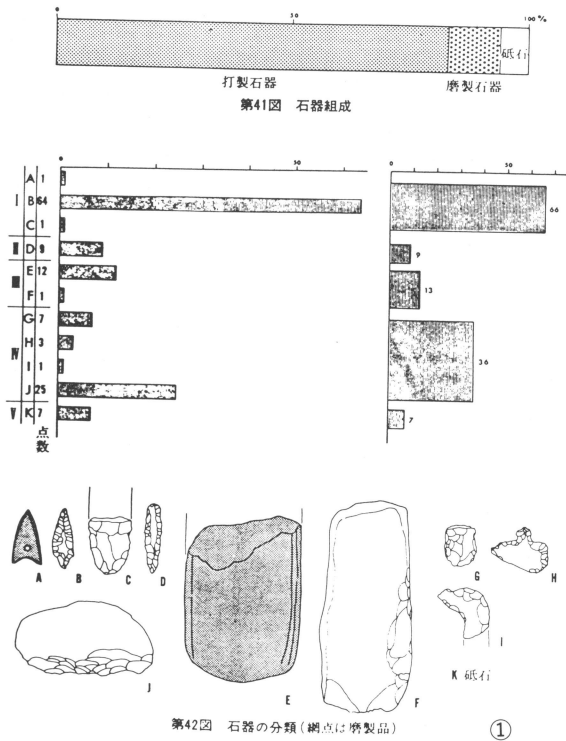
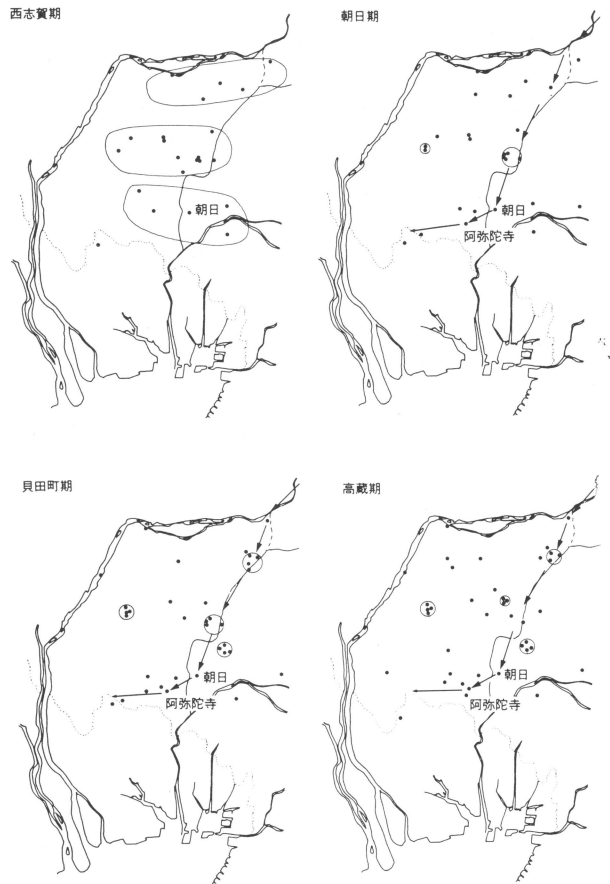
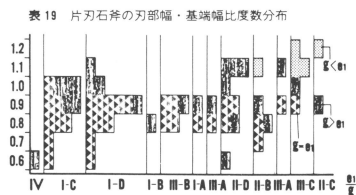
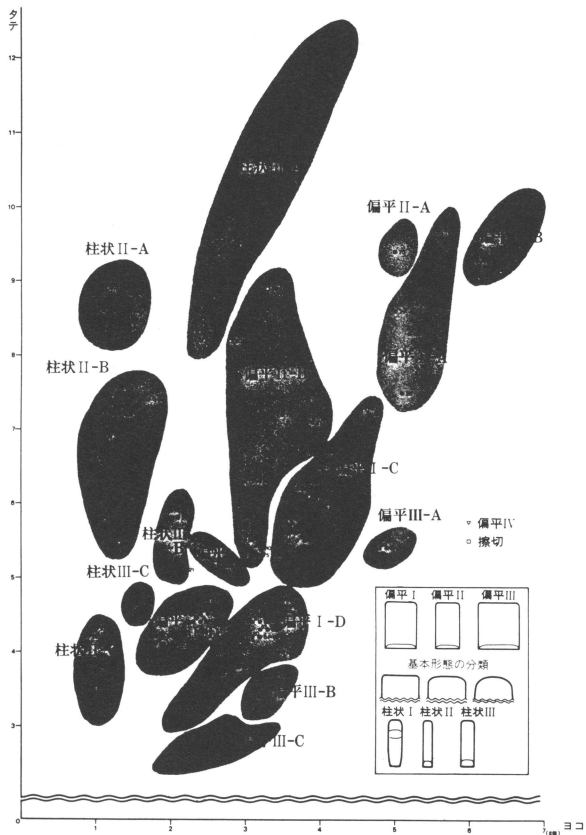
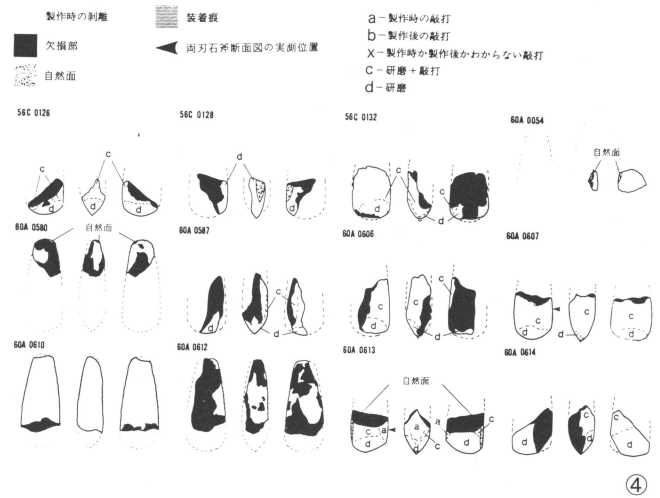


表 18 片刃石斧のタテ・ヨコ長の相関と分類 (柱状片刃Ⅰ類を除く)



②

両刃石斧特徴模式図 (一部) その1



- ① 勝川遺跡 (県サービスセンター1984 より)
- ② 下呂石の分布図 (飴谷 1989 より)
- ③ 朝日遺跡 (県埋文 1993 より)
- ④ 朝日遺跡 (県埋文 1993 より)

3. 愛知県石器研究解題

素描については、「調査研究抄史」で紹介しているので、ここでは代表的な論文をインデックス式化で紹介する。

1955 澄田正一

「日本原始農業の問題」

—美濃・尾張の先史考古学的研究—

『名古屋大学文学部研究論集』X I

名古屋大学

1981 小嶋隆

「石鏃に使われた石材“黒雲母石英安山岩”」

『石巻文化財』6

豊橋市石巻地区文化財保存会

1986 小嶋隆

「石鏃に使われた奥三河の石材“流紋岩・松脂岩・安山岩”」

『石巻文化財』7

豊橋市石巻地区文化財保存会

1988 石川日出志

「伊勢湾沿岸地方における縄文時代晩期・弥生時代の石器組成」

『<条痕文系土器> 文化をめぐる諸問題』研究編

愛知考古学談話会

1989 飴谷 一

「五条川流域における「下呂石」の分布について」

『年 報』昭和63年度

(財)愛知県埋蔵文化財センター

1992 小嶋隆

「石鏃に使われた石材“サヌカイト”」

『石巻文化財』8

豊橋市石巻地区文化財保存会

1992 山本直人

「縄文時代の下呂石の交易」

『名古屋大学文学部研究論集』113 (史学38)

名古屋大学

愛知県内弥生石器関係文献目録

【凡例】

1. 文献の記載順序は発行年順とした。
2. 遺跡の名称は報告時のまま記載した。
3. 報告者名は基本的に石器部分の記載者とした。
4. 時期は、I 期（前期）・II～IV 期（中期）・V～VI 期（後期）で前後の時代は縄文時代晩期後半などと表記した。
5. 石器の種類は概ね網羅したが、種類が多い遺跡に関しては、大陸系磨製石器や特殊な石器を優先して掲載した。

〈尾張〉

No	遺跡名	所在地	報告書名、論文名	発行年	報告者名	時期	出土石器の種類
1	高蔵貝塚	名古屋市長久保区高蔵町	「尾張熱田高蔵貝塚調査」『東京人類学雑誌』26号	1908	鍵谷徳三郎	Ⅲ～Ⅳ期	磨製石斧、石盤、石縄？、凹石ほか
2	二子子遺跡	一宮市森原町森原字三味南	東京考古学会「尾張二子子及浅野弥生式遺跡」『考古学』第1巻第5・6号	1930	森 徳一郎	Ⅲ～Ⅳ期	磨製石斧・扁平片刃・叩石・打製石斧・砥石
3	西志賀遺跡	名古屋西区西志賀町	「銅鑛と出した名古屋西志賀貝塚」『愛知県史跡名勝天然記念物調査報告』第九（史跡其七）	1931	小栗鉄次郎	Ⅲ期が中心	打製石縄
4	瑞穂遺跡	名古屋瑞穂区牧町	「銅鑛と共出した名古屋瑞穂町東の弥生式遺跡」『愛知県史跡名勝天然記念物調査報告』第十	1932	小栗鉄次郎	Ⅲ～Ⅴ期	打製石縄・扁平片刃石斧・石縄・砥石
5	西志賀貝塚	名古屋西区西志賀町字貝塚、宇船人作	「考古学雑誌」第23巻第6号	1933	吉田富夫	Ⅰ～Ⅴ期	石縄、石盤、砥石、砥石
6	瑞穂遺跡	名古屋瑞穂区牧町	名古屋郷土研究会「瑞穂付近に於ける出土器に就て」『尾張の遺跡と遺物』上巻	1935	北村武夫	Ⅳ～Ⅴ期	打製石縄・磨製石縄・磨製石斧・凹石ほか
7	西志賀貝塚	名古屋西区西志賀町	「名古屋西志賀貝塚（集）」『愛知県史跡名勝天然記念物調査報告』第十二（史跡其十）	1936	小栗鉄次郎	Ⅰ・Ⅱ期	独鈷石・太型蛤刃石斧・環状石斧・石棒
8	阿弥陀寺遺跡	海部郡菰日寺町阿弥陀寺	「尾張国海部郡菰日寺町の弥生式遺跡」東京考古学会『考古学』第9巻第1号	1938	吉田富夫	Ⅲ～Ⅳ期	太型蛤刃石斧・扁平片刃石斧
9	阿弥陀寺遺跡	海部郡菰日寺町阿弥陀寺	「尾張国海部郡菰日寺町阿弥陀寺発見の弥生式石器」東京考古学会『考古学』第9巻第3号	1938	吉田富夫	Ⅲ～Ⅳ期	太型蛤刃石斧・扁平片刃石斧・打製石縄・石縄
10	阿弥陀寺遺跡	海部郡菰日寺町阿弥陀寺	「菰日寺町福田川沿岸の古墳時代遺物包含地」『愛知県史跡名勝天然記念物調査報告』第十七	1939	小栗鉄次郎	Ⅲ期	打製石縄・磨製石斧・扁平片刃・石縄、石剣
11	曾野遺跡	岩倉市曾野	「丹羽郡岩倉町大字曾野遺物包含地」『愛知県史跡名勝天然記念物調査報告』第十八	1940	小栗鉄次郎	Ⅲ～Ⅴ期	石他丁・太型蛤刃・扁平片刃・打製石縄ほか
12	（町屋）遺跡	一宮市千秋町	名古屋郷土研究会「丹羽郡千秋村大洞屋敷上の石製品と石器に就いて」『尾張の遺跡と遺物』第29号	1941	坂 重吉	不明	打製石斧
13	（八幡）遺跡	知多郡八幡町字週間地里脇78	名古屋郷土研究会「八幡、藤原町に遺存するま・原田氏の石製品と石器に就いて」『尾張の遺跡と遺物』第30号	1948	坂 重吉	不明	石斧（太型蛤刃石斧？）石臼（石皿？）
14	大地遺跡	岩倉市大地町ほか	古代学研究会「愛知県大地遺跡 尾張における初期弥生式文化の一種相」『古代学研究』11	1955	大参養一	Ⅱ～Ⅲ期	石縄・打製石斧
15	二子子遺跡	一宮市森原町森原字三味南	愛知県教育委員会『愛知県一宮市森原町の弥生式文化遺跡』	1955	吉田章一郎	Ⅱ～Ⅳ期	磨製石斧・太型蛤刃石斧
16	西志賀貝塚	名古屋西区西志賀町	「愛知県西志賀遺跡」『日本農耕文化の生成』	1961	杉原莊介（吉田富夫）	Ⅰ期	太型蛤刃、挟入片刃、打製石縄ほか
17	見晴台遺跡	名古屋南区見晴台	名古屋市教育委員会『見晴台遺跡第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ次発掘調査概報』	1966	紅村弘ほか	Ⅳ～Ⅴ期	打製石縄、石斧、砥石
18	西志賀貝塚	名古屋西区西志賀町	名古屋市文化財調査保存委員会『名古屋西志賀貝塚』『文化財叢書』第19号	1968	紅村弘	Ⅳ～Ⅴ期	太型蛤刃、多頭石斧、環状石斧ほか
19	見晴台遺跡	名古屋南区見晴台	名古屋市教育委員会『見晴台遺跡第Ⅳ・Ⅴ次発掘調査概報』	1968	紅村弘	Ⅳ～Ⅴ期	石縄、凹石、叩石
20	山中遺跡	一宮市森原町山中	一宮市史編纂委員会『新編一宮市史』資料編2	1968	大参養一	Ⅰ～Ⅱ期	打製石縄
21	埋田遺跡	津島市埋田町	津島市教育委員会『津島市埋田遺跡調査報告』	1968	吉田富夫	不明	砥石
22	寺野遺跡	津島市寺野町	津島市教育委員会『津島市史』資料編（一）	1970	吉田富夫	不明	砥石
23	名和八幡社貝塚	東海市（上野町）名和	東海市『東海市史』資料編第一巻『名和八幡社貝塚』	1971	石野 武（吉田富夫）	Ⅲ・Ⅳ期	打製石縄
24	岩滑遺跡	半田市岩滑	半田市『岩滑遺跡』『半田市誌』資料編1	1971	立松 宏	Ⅱ期	打製石縄・石縄
25	柳が呼遺跡	東海市高橋須賀町柳が呼	東海市教育委員会『柳が呼遺跡』	1971	杉崎 章	Ⅲ期	石斧・石縄・凹石
26	貝嶺山貝塚	西春日井郡清洲町	愛知県教育委員会『貝嶺山貝塚調査報告』	1972	井上吉貞	Ⅰ～Ⅱが中心	太型蛤刃、小型扁平片刃、磨製石縄ほか
27	カブト山遺跡	東海市名和町	東海市教育委員会『カブト山遺跡第1次調査報告』	1973	池田睦介	Ⅴ期	凹石・叩石・砥石
28	〔青山〕遺跡	西春日井郡豊山町大字青山	豊山町史編纂委員会『豊山町史』	1973		不明	磨製石斧・打製石縄
29	古沢町遺跡	名古屋市中区古沢町	名古屋市教育委員会『古沢町遺跡発掘調査報告書一弥生時代編一』	1974	和田英雄	Ⅲ～Ⅴ期	石斧、石縄、砥石
30	〔小木〕遺跡	小牧市小木	小牧市史編纂委員会『小牧市史』資料編1	1975	立松 宏	不明	打製石縄・打製石斧・磨製石他丁・扁平片刃石斧
31	曾野遺跡	岩倉市曾野町	『先人文化』	1977	浅野平雄	不明	太型蛤刃石斧・磨製石他丁・扁平片刃石斧
32	町畑遺跡	岩倉市大地町	『先人文化』	1977	浅野平雄	不明	打製石縄・打製石斧
33	見晴台遺跡	名古屋南区見晴町	名古屋市見晴台考古資料館『見晴台遺跡第12・13次発掘調査の記録』	1978	岡本俊郎	Ⅳ～Ⅴ期	石縄、フレイク、石匙
34	瑞穂遺跡	東加茂郡地郷牛地	地郷誌編集委員会『地郷誌』	1979		Ⅳ～Ⅴ期	石斧、砥石、石縄、磨製石剣
35	方場垣内遺跡	名古屋瑞穂区高蔵町	名古屋市教育委員会『高蔵貝塚一春日北跡地区 発掘調査報告書』	1981	大参養一	不明	打製石縄・有孔磨製石縄
36	高蔵遺跡	名古屋瑞穂区高蔵町	名古屋市教育委員会『高蔵貝塚一春日北跡地区 発掘調査報告書』	1982		Ⅰ～Ⅵ期	打製石縄、磨製石斧
37	高蔵貝塚	名古屋瑞穂区高蔵町	南山大学人類学博物館編集『高蔵貝塚一春日北跡地区 発掘調査報告書』	1982	宮腰健司	Ⅳ～Ⅵ期	石縄（未製品）
38	中ノ池遺跡群B地	東海市高橋須賀町藤塚	東海市教育委員会『中ノ池遺跡群発掘調査報告』	1982	立松 彰	Ⅴ以降	砥石・磨石・砥石
39	中五反田遺跡	丹羽郡大口町大字小口字中五反田	大口町誌編集委員会『大口町誌』	1982	宮川芳照	Ⅲ～Ⅴ期	磨製石他丁・扁平片刃・磨製石縄ほか
40	東越田遺跡	丹羽郡大口町大字小口字東越田	大口町誌編集委員会『大口町誌』	1982	宮川芳照	Ⅲ～Ⅴ期	打製石斧・磨製石縄・打製石縄・石ノミほか
41	仁所野遺跡	丹羽郡大口町大字小口字仁所野	大口町誌編集委員会『大口町誌』	1982	宮川芳照	不明	柱状片刃石斧
42	山中遺跡	一宮市森原町山中	一宮市教育委員会『尾張病院山中遺跡』	1982	赤塚次郎	Ⅰ期	打製石縄

No.	遺跡名	所在地	報告書名、論文名	発行年	報告者名	時期	出土石器の種類
43	朝日遺跡	西春日井郡清洲町ほか	愛知県教育委員会『朝日遺跡』第2分冊	1982	加藤安信ほか	I～Ⅳ期	各種石器有り
44	高蔵遺跡	名古屋市熱田区高蔵町	名古屋市教育委員会『昭和57年度 埋蔵文化財発掘調査概要報告書』	1983		不明	打製石鏃
45	野崎遺跡	知多市寺本	知多市誌編集委員会『知多市誌』資料編二	1983	磯部幸男	Ⅱ～Ⅲ期	石鏃・小型蛤刃石斧
46	獅子巻遺跡	知多市南獅子懸	知多市誌編集委員会『知多市誌』資料編二	1983	磯部幸男	Ⅱ～Ⅳ期	石匙・打製石鏃
47	細見遺跡	知多市八幡字細見43	知多市教育委員会『知多市文化財報告第20集 細見遺跡（第2次発掘調査）』	1984	中野晴久ほか	Ⅲ期	盤状石皿・打製石鏃・磨製石斧・石槍・剥片石器ほか
48	大塚遺跡	稲沢市大塚町	新修稲沢市史編集委員会『新修稲沢市史』資料編六	1984		I期が中心	打製石鏃・磨製石斧・刃器
49	勝川遺跡	春日井市勝川町	愛知県教育サービスセンター『勝川』	1984	赤塚次郎	Ⅲ・Ⅳ期	磨製石鏃・磨製石斧・石槍・剥片石器ほか
50	下高田遺跡	美浜町野間台	美浜町編集委員会『美浜町誌』資料編二	1985	奥川弘成	I～Ⅴ期	石鏃・磨製石斧・石砲丁・サヌカイト剥片
51	下高田遺跡丸山池	知多郡美浜町大字野間字丸山池	美浜町誌編集委員会『美浜町誌』資料編二	1985	奥川弘成・杉崎 彰	Ⅱ～Ⅳ期	石鏃・石鏃・有効甲板
52	細見遺跡	知多市八幡字細見43.1	知多市教育委員会『細見遺跡（第3次発掘調査）』	1986	坂野俊哉	I～Ⅳ期	磨製石鏃・打製石鏃・磨石・叩石ほか
53	高蔵遺跡	名古屋市夜寒町	名古屋市教育委員会『熱田区夜寒町 高蔵遺跡発掘調査報告書』	1987	舞江昭三	Ⅳ～Ⅴ期	石鏃・石斧・尖頭器・石剣ほか
54	瑞穂遺跡	名古屋市瑞穂区牧町	名古屋市教育委員会『瑞穂遺跡—第4次調査の概要—』	1987		Ⅳ～Ⅴ期	磨製石斧・砥石
55	見晴台遺跡	名古屋市南区見晴町	名古屋市見晴台古資料館『見晴台遺跡第25次発掘調査の記録』	1989	野口泰子・水野裕之	Ⅳ～Ⅴ期	石鏃・砥石・凹石
56	ト・メキ遺跡	東海市名和町ト・メキ・八幡前	東海市教育委員会『ト・メキ遺跡』	1988	立松 彰	Ⅲ期	大型蛤刃石斧・砥石・打製石鏃・剥片石器
57	大喜遺跡	名古屋市瑞穂区大喜新町	名古屋市教育委員会『瑞穂区大喜新町大喜遺跡—発掘調査の概要—』	1989	野澤則幸	不明	磨石、石皿
58	見晴台遺跡	名古屋市南区見晴町	名古屋市見晴台古資料館『南区見晴町見晴台遺跡 第20次発掘調査報告書』	1990	伊藤厚史	Ⅳ～Ⅴ期	スクレイパー、剥片
59	貴生町遺跡	名古屋市西区貴生町	名古屋市教育委員会『貴生町遺跡 第3～5次調査の概要』	1990		不明	石鏃
60	阿弥陀寺遺跡	海部郡甚目寺町大字石作・新居屋	愛知県埋蔵文化財センター『阿弥陀寺遺跡』	1990	石黒立人	Ⅲ～Ⅳ期	各種石器有り
61	森南遺跡	海部郡甚目寺町大字森	甚目寺町教育委員会『森南遺跡』甚目寺町文化財調査報告Ⅱ	1990	長島広ほか	Ⅲ～Ⅴ期	磨製石斧・扁平片刃・石砲丁・打製石鏃ほか
62	名古屋城三の丸遺跡	名古屋市中区三の丸	愛知県埋蔵文化財センター『名古屋城三の丸遺跡（Ⅰ）』	1990	松田 訓	Ⅲ期	石砲丁
63	月繩手遺跡	名古屋市西区比良	愛知県埋蔵文化財センター『月繩手遺跡・貴生町遺跡』	1990	松田 訓	I期	打製石鏃
64	貴生町遺跡	名古屋市西区比良	愛知県埋蔵文化財センター『月繩手遺跡・貴生町遺跡』	1990	宮藤健司	I期	打製石鏃、磨製石斧
65	大海遺跡	海部郡甚目寺町大字甚目寺大洲	愛知県埋蔵文化財センター『大海遺跡』	1991	宮藤健司	Ⅳ期	打製石鏃・磨製石鏃・大型蛤刃・扁平片刃ほか
66	長谷遺跡	南知多町片名	南知多町誌編集委員会『南知多町誌』本文編	1991	中野晴久	不明	大型蛤刃石斧
67	潮干大池遺跡	南知多町内海	南知多町誌編集委員会『南知多町誌』本文編	1991	中野晴久	不明	扁平片刃石斧
68	山田遺跡	南知多町大井	南知多町誌編集委員会『南知多町誌』本文編	1991	中野晴久	不明	石鏃
69	鯉浜遺跡	南知多町篠島	南知多町誌編集委員会『南知多町誌』本文編	1991	中野晴久	不明	石鏃
70	枝間遺跡	南知多町師崎町	南知多町誌編集委員会『南知多町誌』本文編	1991	中野晴久	不明	石鏃
71	板取遺跡	南知多町師崎町	南知多町誌編集委員会『南知多町誌』本文編	1991	中野晴久	不明	石鏃
72	見晴台遺跡	名古屋市南区見晴町	名古屋市見晴台古資料館『見晴台遺跡 第20次発掘調査の記録』	1992	川合剛	Ⅳ～Ⅴ期	石鏃・石核、磨石
73	見晴台遺跡	名古屋市南区見晴町	財団法人荒木城成館『見晴台遺跡第Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ次発掘調査概要』	1992	吉田富夫	Ⅳ～Ⅴ期	磨製石斧、石匙よう刃器、磨石、砥石
74	瑞穂遺跡	名古屋市瑞穂区牧町	名古屋市教育委員会『瑞穂区牧町 瑞穂遺跡発掘調査概要報告書』	1992		Ⅳ～Ⅴ期	石鏃、くぼみ石
75	富士見町遺跡	名古屋市中区上南津	名古屋市教育委員会『富士見町遺跡 第4次発掘調査の概要』	1992	伊藤正人	不明	石鏃
76	山中遺跡	一宮市森原町山中	愛知県埋蔵文化財センター『山中遺跡』	1992	石黒立人	I期	各種石器有り
77	岩倉城遺跡	岩倉市下木町・大市場町	愛知県埋蔵文化財センター『岩倉城遺跡』	1992	服部信博	Ⅲ期	磨製石斧・剥片石器
78	勝川遺跡	春日井市勝川町	愛知県埋蔵文化財センター『勝川遺跡Ⅲ』	1992	岡本直久	Ⅳ期	打製石鏃・砥石
79	勝川遺跡	春日井市勝川町	愛知県埋蔵文化財センター『勝川遺跡Ⅳ』	1992	石黒立人・五藤そのみ	Ⅳ期が中心	各種石器有り
80	朝日遺跡	西春日井郡清洲町ほか	愛知県埋蔵文化財センター『朝日遺跡Ⅳ』	1993	石黒立人ほか	中期Ⅲ以前～Ⅳ期？	各種石器有り
81	法海寺遺跡	知多市八幡字平井19	知多市教育委員会『法海寺Ⅱ』	1993	渡辺 誠	不明	打製石鏃・磨製石斧・スクレイパーほか

〈三河〉

No.	遺跡名	所在地	報告書名、論文名	発行年	報告者名	時期	出土石器の種類
1	石神貝塚	渥美郡渥美町	『渥美郡史』	1923		不明	石剣
2	牛呂貝塚	豊橋市	『渥美郡史』	1923		不明	磨製石斧
3	高師原A地点遺跡	豊橋市高師原	『愛知県下発見の有柄石剣』「考古学」第4巻第7号	1933	森本六爾	不明	石剣
4	丸塚包含地	宝飯郡一宮村江島字丸塚	『三河宝飯郡丸塚遺跡概報』「古代文化」第12巻17号	1941	吉田富夫・伊藤晃	Ⅲ期	打製石鏃、打製石斧、蛤刃石斧、敲石ほか
5	橋良貝塚	豊橋市橋良町	『三河の貝塚』	1949	久永春男	Ⅳ期	打製石鏃
6	欠山・五杜稲荷	宝飯郡小坂井町欠山	『三河の貝塚』	1949	久永春男	Ⅳ～Ⅵ期	磨製石斧、打製石鏃、磨製石鏃
7	篠東遺跡	宝飯郡小坂井町篠東	小坂井町教育委員会『篠東遺跡調査報告書』	1961	伊藤秋男	Ⅱ～Ⅲ期	打製石斧、大型蛤刃、小型扁平片刃ほか
8	篠東遺跡	宝飯郡小坂井町篠東	小坂井町教育委員会『篠東遺跡調査報告書第2次』	1961	細村弘	Ⅱ～Ⅲ期	打製石鏃、打製石匙、磨石
9	櫛王遺跡	宝飯郡小坂井町欠山	小坂井町教育委員会『篠東遺跡調査報告書第2次』	1961	細村弘	Ⅰ～Ⅱ期	打製石鏃、打製石斧、敲石、石刀ほか
10	瓜郷遺跡	豊橋市瓜郷町	豊橋市教育委員会『瓜郷』	1963	久永春男	Ⅲ～Ⅵ期	大型蛤刃、乳棒状石斧、挟入片刃、石抱丁ほか
11	欠山遺跡	宝飯郡小坂井町	豊橋市教育委員会『瓜郷』	1963	久永春男・芳賀陽	Ⅴ～Ⅵ期	凹石、砥石
12	八領遺跡	新城市大宮字下馬場	愛知県教育委員会『豊川用水路関係遺跡調査報告』	1965	岩野見司ほか	Ⅱ期	打製石鏃、打製石斧、磨製石斧ほか
13	欠山第3貝塚	宝飯郡小坂井町篠東字欠山	愛知県教育委員会『豊川用水路関係遺跡調査報告』	1965	細村弘ほか	Ⅳ～Ⅵ期	打製石鏃、(有孔)磨製石鏃、磨製石器(石斧)
14	大根平遺跡	津貝村字中口	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	Ⅱ～Ⅳ期?	石製鈴鐺車
15	上ノ平遺跡	北設楽郡東栄町大字中設楽字上ノ平	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	Ⅴ～Ⅵ期?	カンナ形石斧(扁平片刃石斧)
16	中貝津遺跡	北設楽郡東栄町大字中設楽字中貝津	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	不明	磨製石鏃
17	寺南遺跡	北設楽郡東栄町大字通称坂南	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	不明	磨製石鏃(有孔)
18	桜平遺跡	北設楽郡東栄町大字本郷字桜平	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	Ⅰ期?	磨製石鏃
19	寄近遺跡	北設楽郡東栄町大字本郷字寄近	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	Ⅱ期～Ⅵ期?	磨製石鏃
20	箱平遺跡	北設楽郡東栄町大字下田字箱平	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	Ⅱ期～Ⅳ期?	磨製石抱丁・磨製石鏃
21	面目路遺跡	北設楽郡東栄町大字下田字面目路	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	不明	磨製石鏃
22	笹平遺跡	北設楽郡東栄町大字小松字笹平	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	Ⅱ～Ⅳ期?	石槌
23	三軒屋遺跡	北設楽郡東栄町大字川向通称三軒屋	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	不明	大型石鏃
24	桜ノ木遺跡	北設楽郡稲武町大字中東サ桜ノ木	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	不明	打製石鏃
25	シタキ遺跡	北設楽郡稲武町大字小田木字シタキ	『北設楽郡史』 原始～中世	1968	夏目一平	Ⅴ～Ⅵ期?	扁平片刃石斧、挟入石斧
26	高橋遺跡	豊田市高橋町	豊田市教育委員会『高橋遺跡発掘調査報告書』	1968	久永春男	不明	砥石・石鏃
27	高橋遺跡	豊田市高橋町	豊田市教育委員会『高橋遺跡発掘調査報告書』	1971	不明	Ⅴ～Ⅵ期	凹石・石皿・石鏃・磨製石斧・石刀
28	加治遺跡	渥美郡田原町大字加治字取手	『田原町史』上巻	1971		不明	磨製石斧
29	宮西遺跡	渥美郡田原町	『田原町史』上巻	1971		不明	磨製石斧、石抱丁、石鏃、敲石ほか
30	於御所遺跡	岡崎市宮津町	岡崎市教育委員会『岡崎市宮津町於御所遺跡』	1972	(斉藤嘉彦)	Ⅴ～Ⅵ期?	大型蛤刃形石斧、砥石、凹石ほか
31	松崎八反田遺跡	西尾市八ッ亩町八反田	『西尾市史』 自然環境・原始古代 -	1973	牧富也ほか	Ⅱ～Ⅳ期?	大型蛤刃石斧、扁平片刃石斧、石鏃
32	岡島遺跡	西尾市岡島町	『西尾市史』 自然環境・原始古代 -	1973	牧富也ほか	Ⅱ～Ⅳ期?	大型蛤刃石斧
33	住崎遺跡	西尾市住崎町	『西尾市史』 自然環境・原始古代 -	1973	牧富也ほか	Ⅱ～Ⅵ期?	大型蛤刃石斧
34	久保久神社遺跡	西尾市熊味町山畔	『西尾市史』 自然環境・原始古代 -	1973	牧富也ほか	Ⅱ～Ⅵ期?	石鏃
35	熊子山遺跡	西尾市八ッ亩町熊子山	『西尾市史』 自然環境・原始古代 -	1973	牧富也ほか	Ⅱ～Ⅵ期?	打製石鏃
36	清水包含地	西尾市平坂町中畑字清水34	『東海の先史遺跡』	1974	細村弘	縄文晩期初頭・Ⅰ～Ⅱ	打製石鏃、模型石小刀、石鏃
37	岡島包含地	西尾市岡島町西	『東海の先史遺跡』	1974	細村弘	Ⅲ～Ⅳ期?	大型蛤刃石斧、挟入石斧、打製石鏃
38	五本松包含地	岡崎市美合町五本松	『東海の先史遺跡』	1974	細村弘	Ⅱ期	石鏃(細文も含む)
39	味噌粕岩包含地	岡崎市井口町味噌粕岩	『東海の先史遺跡』	1974	細村弘	Ⅰ～Ⅳ期	石小刀
40	上条包含地	安城市上条字根崎	『東海の先史遺跡』	1974	細村弘	Ⅱ～Ⅵ期?	大型蛤刃石斧等
41	坂戸包含地	岡崎市坂戸	『東海の先史遺跡』	1974	細村弘	Ⅱ～Ⅵ期?	大型蛤刃石斧、小型扁平石斧
42	高師原散布地	豊橋市高師原	『東海の先史遺跡』	1974	細村弘	不明	石剣

No.	遺跡名	所在地	報告書名、論文名	発行年	報告者名	時期	出土石器の種類
43	河原田遺跡	宝飯郡御津町上佐脇河原田	『東海の先史遺跡』	1974	紅村弘	Ⅲ～Ⅳ期	大型蛤刃石斧、打製石鏃
44	麻生田包含地	豊川市麻生田字男貝津	『東海の先史遺跡』	1974	紅村弘	不明	大型蛤刃石斧
45	水神平遺跡	宝飯郡一宮町上長山字西水神平～東水神平	『東海の先史遺跡』	1974	紅村弘	I～II期	磨製石斧、乳棒状磨製石斧、環状石斧ほか
46	小森遺跡	渥美郡渥美町中山字小森	『東海の先史遺跡』	1974	紅村弘	Ⅲ期	(磨製)石胞丁
47	中山貝塚	渥美郡渥美町中山字天白	『東海の先史遺跡』	1974	紅村弘	V～VI期?	打製石鏃、磨製石斧
48	石神貝塚	渥美郡渥美町大字石神字中平野	『東海の先史遺跡』	1974	紅村弘	Ⅳ～Ⅴ期?	石剣
49	宮西遺跡	渥美郡田原町大字大久保	『東海の先史遺跡』	1974	紅村弘	V～Ⅵ期?	打製石鏃、石胞丁?、砥石、鋤石等
50	赤日子遺跡	蒲郡市神ノ郷町	『蒲郡市誌』	1974		V～Ⅵ期	磨製石斧等
51	小針遺跡	知立市上重原町小針	知立市教育委員会『小針遺跡発掘調査報告』	1976	清水正明	Ⅲ期	(打製)石鏃
52	天神遺跡	知立市西中町天神～永崎	『知立市史』上巻	1976		Ⅳ期	大型蛤刃石斧
53	丸塚遺跡	宝飯郡一宮町大字東上字丸塚	『一宮町誌』本文編	1976	牧野彦一ほか	Ⅲ期	打製石鏃、磨製石斧、打製石斧
54	新道遺跡	宝飯郡一宮町大字大木字新道	『一宮町誌』本文編	1976	牧野彦一ほか	Ⅵ期	磨製石鏃(有孔)、磨製石斧、打製石鏃ほか
55	上平井タイカ遺跡	新城市上平井字タイカ	新城市教育委員会『新城市上平井タイカ・豊栄真向遺跡』	1979	天野陽保	I～Ⅵ期?	石鏃、打製石斧、(磨製)石胞丁、蛤刃石斧ほか
56	真向遺跡	新城市豊栄字真向	新城市教育委員会『新城市上平井タイカ・豊栄真向遺跡』	1979	織田勇司、中島義二	突帯紋I～I期	打製石胞丁
57	門前遺跡	蒲郡市清田町門前	蒲郡市教育委員会『門前遺跡』	1980	小畑頼孝、森田勝三	V～古墳前期	石鏃、剣片
58	浪ノ上遺跡	豊橋市牛久保町浪ノ上地内	豊橋市教育委員会『豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告書』第3集	1982	森田勝三	I～II期	石刃
59	永崎遺跡(含西中)	知立市西中町	知立市教育委員会『知立市考古資料集成』	1983	清水正明	I～Ⅵ期?	大型蛤刃石斧、柱状両刃石斧、石鏃
60	西中遺跡	知立市西中町	知立市教育委員会『西中遺跡1』	1985	清水正明	不明	石鏃、磨石
61	御瀬遺跡	宝飯郡一宮町大字金沢	一宮町教育委員会『御瀬遺跡発掘調査報告書』	1988	須川勝以	Ⅵ～古墳時代前期	磨製石斧
62	天神遺跡A・B	知立市西中町天神	知立市教育委員会『知立市西中遺跡群発掘調査報告書』	1988	岡林茂史ほか	Ⅲ～Ⅳ期	打製石鏃、磨製石鏃、扁平片刃、磨製石斧ほか
63	瓦場遺跡群一大草	渥美郡渥美町大字伊良湖字大草	愛知市教育委員会『渥美半島埋蔵文化財調査報告』	1987	加藤岩藏ほか	Ⅵ～古墳前期	石鏃、石斧
64	為当糸里遺跡	豊川市為当町	豊川市教育委員会『為当糸里遺跡発掘調査報告書』	1997	前田清彦	V～Ⅵ期	凹石
65	天神遺跡B地区	知立市西中町天神	知立市教育委員会『知立市西中遺跡群発掘調査報告書』II	1987	岡本茂史・鶴田真佐子	不明	扁平片刃石斧、打製石鏃、磨石、石皿ほか
66	中長遺跡	知立市西中町中長84番地1	知立市教育委員会『知立市西中遺跡群発掘調査報告書』II	1987	岡本茂史・鶴田真佐子	I期	打製石鏃、磨石
67	東光寺遺跡	額田郡幸田町深瀬地内	幸田町教育委員会『愛知県額田郡幸田町東光寺遺跡発掘調査報告書-1・2・3次調査』	1987	小笠原久和	Ⅱ期	磨製石斧
68	味増柏岩遺跡	岡崎市井口町字深田3番地	『新編岡崎市史 史料』考古上	1997			打製石胞丁、磨製石胞丁、大型蛤刃石斧、砥石
69	荒新切遺跡	知立市西中町字荒新切	知立市教育委員会『西中遺跡群発掘調査報告書』III	1989	伊吹香(岡本茂史)	I～Ⅳ期	打製石鏃、局部磨製石斧、砥石、剣片
70	東光寺遺跡	額田郡幸田町深瀬地内	幸田町教育委員会『西中遺跡群』IV	1988	小笠原久和、栗田真澄	不明	打製石鏃、磨製有孔石鏃、磨製片刃石斧ほか
71	荒新切遺跡	知立市西中町字荒新切	知立市教育委員会『西中遺跡群』IV	1989	岡本茂史	不明	打製石鏃
72	中根山遺跡	幡豆郡吉良町大字岡山字中根山	吉良町教育委員会『愛知県幡豆郡吉良町中根山遺跡発掘調査報告書』	1989	(加藤安信)	Ⅳ～古墳前期	鋤石、剣片、石鏃、磨石
73	南貝津遺跡	新城市大宮字南貝津	新城市教育委員会『南貝津遺跡』	1989	鈴木隆司	Ⅲ～Ⅵ期	紡錘車、石鏃(有孔磨製)、打製石胞丁、砥石
74	郷中遺跡	豊川市三谷原町	豊川市教育委員会『郷中・雨谷遺跡』	1989	小島隆、前田清彦	I～Ⅵ期	大型蛤刃、挟入柱状片刃、扁平片刃ほか
75	岡島遺跡	西尾市岡島町	愛知県埋蔵文化財センター『岡島遺跡』	1990	野口哲也(池本正明)	Ⅲ～Ⅳ期	大型蛤刃、柱状片刃、扁平片刃、石胞丁ほか
76	荒新切遺跡	知立市西中町字荒新切	知立市教育委員会『西中遺跡群』IV	1990	岡本茂史	不明	打製石鏃、扁平片刃石斧、磨製磨石製品
77	河原田A地点遺跡	宝飯郡御津町	『御津町史』本文編	1990	小笠原久和ほか	Ⅱ～Ⅳ期	石鏃、石鏃、石小刀、石胞丁
78	平野遺跡	渥美郡渥美町大字石神字中平野	『渥美町史 考古・民俗編』	1991	小野田勝一	Ⅵ期?	砥石、凹石、石斧、石鏃
79	麻生田大橋遺跡	豊川市麻生田町大橋	愛知県埋蔵文化財センター『麻生田大橋遺跡』	1991	石黒立人	突帯紋I～Ⅲ期	磨製石斧、剣片石器、石棒、石剣ほか
80	欠山遺跡	宝飯郡小坂井町大字小坂井欠山	小坂井町教育委員会『愛知県宝飯郡小坂井町欠山遺跡』	1991	須川勝以	Ⅲ～古墳前期	大型蛤刃、扁平片刃、乳棒状石斧ほか
81	西中神明社南遺跡	知立市西中町跡落・西街道	知立市教育委員会『愛知県知立市西中神明社南遺跡発掘調査報告書』	1992	岡本茂史	I～Ⅲ期	短冊型打製石斧、磨製石斧、剣片、砥石
82	岡島遺跡	西尾市岡島町・江原町	愛知県埋蔵文化財センター『岡島遺跡II・不馬入遺跡』	1993	松田調(池本正明)	Ⅲ～Ⅳ期	大型蛤刃・柱状片刃・扁平片刃・磨製石胞丁ほか
83	麻生田大橋遺跡	豊川市麻生田町大橋	豊川市教育委員会『麻生田大橋遺跡発掘調査報告書』	1993	小島隆	突帯紋I～Ⅲ期	石鏃、磨製石斧、横刃形石器ほか
84	岡島遺跡	西尾市岡島町・江原町	愛知県埋蔵文化財センター『岡島遺跡II・不馬入遺跡』	1993	松田調(池本正明)	弥生中期前～後葉	磨製石胞丁・大型蛤刃・柱状片刃・石剣ほか
85	白石遺跡	豊橋市港町石巻本町字棚割39	豊橋市教育委員会『白石遺跡』	1993.3	費元洋	突帯紋I～Ⅲ期	磨製石斧、打製石斧、打製石鏃、石鏃ほか